

## 病院機能評価を受審しました ～ より良い医療と 病院づくりを目指して ～

6月29日・30日の2日間にわたり、病院機能評価を受審しました。受審に向けて、各部署では日々の仕事や取り組みを振り返りながら、マニュアルの確認・改訂を行い、職員間で意見を交わすなど、準備を進めてきました。終了後に実施した職員アンケートでは、「マニュアルを見直す良い機会になった」「他部署の仕事を知ること、重複している作業や無駄に気づき、効率化につなげることができた」「普段行っていることに自信を持つことができた」といった声が寄せられました。病院機能評価を受審することは、第三者からの評価を受けることに加え、日頃の仕事を見つめ直し、部署の垣根を越えて、病院全体の医療や環境について考える貴重な機会となりました。

今回の経験をこれからの業務に活かし、一人ひとりの患者さんに安心していただける医療を提供できるよう、職員一同、より良い病院づくりに取り組んでまいります。



受審に向けた多職種での  
意見交換

## 皆さんの声を、より良い病院づくりに ～ ご意見をお聞かせください ～



当院では、患者さんやご家族の皆さんからの声をお聞きするため、ご意見箱を設置しています。2週間に1回、寄せられたご意見を確認し、担当部署で内容を検討するとともに、今後の病院づくりに活かしています。

また、寄せられたご意見とその回答は、当院ホームページの「ご意見箱への回答」のページにも掲載しています。

「ここが分かりにくかった」「こうだったらもっと安心できる」など、皆さんが感じたことは、私たちにとって病院をより良くするための大切な気づきです。

これからも、皆さんから寄せられる声を大切に、一つひとつのご意見を病院づくりに生かしていきます。ぜひお気づきのことがありましたら、ご意見をお聞かせください。

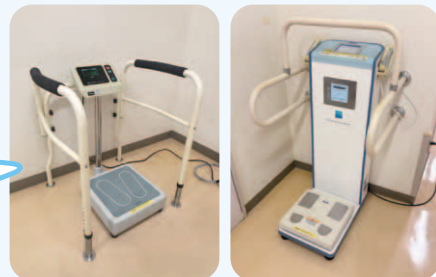


ご意見箱

いただいたご意見から、こんな改善をしました

**「内科の体重計の所に手すりをつけてもらいたいです。」**

このご意見を受け、内科の体重計の横に手すりを設置しました。



# ゆふいんだより

2026  
秋号

2026年(令和8年)10月発行

## 災害への備えを、もう一度 ～ あの日の経験を、これからの力に ～



2016年の熊本地震では、湯布院病院も大きな被害を受けました。

建物への影響、断水、病院間搬送、診療機能の停止などを経験し、通常の業務に戻るまでには数か月を要しました。

あれから10年。2026年に再び熊本地震が発生したことを機に、改めて災害への備えと病院としての対応を考えています。

### 令和8年熊本地震への支援

地震発生後、被災病院への備蓄物資の輸送や被災地の避難所へのリハビリスタッフの派遣など、支援活動を行いました。



### 消防訓練



消火器による初期  
消火を想定した訓練



スロープで下の階に移動



伝票への指示記載と  
指示確認



伝票運用での  
薬剤準備

消防訓練では、患者さんの避難ルートや誘導の手順を確認しました。患者さんの状態に応じて安全に避難する方法について考えるとともに、ヘルメットや避難グッズなどの防災用品も点検しました。

情報システム緊急時対応訓練では、電子カルテが使用できない事態を想定し、処方箋や検査伝票などに手書きで指示を記載し、各部門へ情報が伝わるまでの流れを確認しました。電子カルテが日常の診療に欠かせない現在、紙による運用には、想像以上に多くの手順と確認が必要です。今回の訓練を通じて、災害時に起こり得る課題も具体的に見えてきました。

災害への備えは、物品を準備するだけでは十分ではありません。「いざという時に、実際に使える・動ける」ことが重要です。2016年の被災経験やこれまでの訓練を通じて得た気づきを一つひとつ振り返り、今回見えた課題を手順書や運用方法の見直しにつなげていきます。BCP（事業継続計画）なども含め、災害時にも患者さんの安全と病院機能を守り、診療を継続できる体制を日頃から整えていきます。

## 災害から命と暮らしを守るために ～ 市民公開講座で考える「もしも」の備え ～



災害はいつ起こるか分かりません。今回の市民公開講座では、災害時に「命を守ること」と「避難後の暮らし」をテーマに、災害支援ナースと理学療法士が、それぞれの立場から災害への備えについてお話ししました。

### 災害支援ナースの講座

#### 災害から命を守るために今日からできる5つの備え ～ いつ起こるか分からない災害に備えて ～

講座では、いざという時に自分や家族の命を守るために、今日からできる5つの備えを紹介しました。

- ① 自分の地域を知る
- ② 非常持ち出し袋を準備する
- ③ 薬・医療用品を備える
- ④ 家の中を安全にする
- ⑤ 家族・地域とのつながりを作る

防災グッズについても、実際の用品を手に取りながら、どのように備えておくかを分かりやすく解説しました。



### 災害支援ナースとは？

災害時に被災地などへ派遣され、地域住民の健康を守るための看護や、現地で活動する看護職員への支援を行う看護職です。厚生労働省が実施する「災害支援ナース養成研修」を修了し、登録された看護職員が活動します。 ※参考：公益社団法人 大分県看護協会「災害支援ナース」

当院にも、研修を修了した災害支援ナースが11名在籍しています。災害時には被災地への派遣にも対応できるよう、日頃から備えています。

### 理学療法士（JRATスタッフ）の講座

#### リハビリから考える、もしもの暮らし ～ ダンボールベッドを体験してみよう ～

災害時の避難生活では、普段とは異なる環境で生活することになります。講座では、JRAT（日本災害リハビリテーション支援協会）のスタッフとして被災地の避難所支援に携わった理学療法士が、避難生活で起こりやすい身体の負担や、生活環境を整えることの大切さについて紹介しました。

後半には、実際にダンボールベッドを組み立て、参加者の皆さんに寝心地や立ち上がりやすさなどを体験してもらいました。災害時の「暮らし」を具体的にイメージする機会となりました。



**JRATとは？** 災害関連死を防ぎ、被災者の生活機能を守るリハビリテーション支援チーム



参加者の皆さんに聞きました  
「ダンボールベッドを体験してみて、どうでしたか？」

「思っていたよりしっかりしていて、安心して横になれました。」  
「立ち上がるときの高さや、寝心地などを実際に体験できて良かったです。」

災害への備えは、「起きてから」ではなく「起きる前」から。  
今回の講座をきっかけに、今日からできる備えについて考えてみませんか。

## 「食べる」を支える、きめ細かな食事づくり ～ 一人ひとりに合わせた食形態 ～



病院の食事は、すべて同じ食形態ではありません。患者さんの飲み込みや噛む力、体の状態などに合わせて、食べやすく、安全に食事をしていただけるよう、さまざまな食形態を用意しています。

例えば、ゼリー食、ペースト食、ソフト食など、それぞれの状態に合わせて調理方法や形状を工夫しています。 日本摂食嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類2021に準ずる



### 【ゼリー食】

ミキサーにかけ均質で  
なめらかなゼリー状にし  
たもの



### 【ペースト食】

ミキサーにかけた均質で  
なめらかなもの  
とろみがついたペースト状



### 【ソフト食】

粒を残し、再形成した  
不均質なもの



### 【常食】

一般的な食事形態

見た目や食べやすさにも配慮しながら、「食べること」が少しでも楽しみになるよう、栄養管理室では一人ひとりに合わせた食事づくりに取り組んでいます。



【行事食】 敬老の日

## 地域とともに、夏の夜を楽しみました ～ 新しい法被で盆踊りへ ～



「ゆふぽん」

今年も湯布院町内の盆踊りに、当院スタッフが参加しました。今回は、オリジナルキャラクター「ゆふぽん」をあしらった新しい法被を着用し、地域の皆さんと一緒に盆踊りを楽しみました。



### 新しい法被に、地域への思いを込めて

新しい法被には、「ゆふぽん」をはじめ、由布岳や由布院駅、辻馬車など、湯布院を象徴するさまざまなモチーフがイラストとして描かれています。湯布院らしさを感じられるデザインに、地域の中にある病院としての思いを込めました。

地域行事への参加も、地域の皆さんとつながる大切な活動の一つです。これからも、医療や介護の場だけでなく、地域のさまざまな活動を通じて、皆さんとのつながりを大切にしていきます。